



平成29年度鶏卵規格取引研修会開催について

中央鶏卵規格取引協議会
事務局

1 目的

鶏卵規格取引要綱（平成12年12月1日付け農林水産事務次官通知）第5の5（鶏卵規格取引の格付け責任者及びその指導を行う者）に基づく資格取得研修会を開催し、規格取引の円滑な推進に資することを目的としています。

2 受講者資格と受講者定員

1) 受講資格者

鶏卵生産者、生産者団体職員、鶏卵出荷者、荷受業者、加工業者、都道府県担当職員、その他鶏卵の取り扱いに関係のある方。

2) 受講定員 (1) 東京会場 95名 (2) 京都会場 70名

3 受講申込み

1) 申込み方法

受講希望者は、[申込書](#)<下線部をクリックすると研修会申込書が開きます>に受講希望地（東京会場、京都会場）、受講者氏名等を記入し、お申込み下さい。（FAXでも可能です。FAX番号は次ページ「問合わせ先」です。）

なお、受講費納入用の振込取扱票はそれぞれの会場の申込み締切後に送付致しますので、早急な振込みをお願い致します。

2) 申込み期限

(1) 東京会場 平成29年10月20日（金）

(2) 京都会場 平成29年10月27日（金）

3) 送付先

〒104-0033 東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館
（一社）日本養鶏協会内

中央鶏卵規格取引協議会事務局 あて

なお、受講者が定員に達し次第、受講申込み期限前であっても締切りますので早めにお申込み下さい。

4 開催日程と会場

1) 東京会場

平成29年11月10日（金）10:00～16:00（予定）

馬事畜産会館2F会議室

（一社）日本養鶏協会（TEL03-3297-5515）

東京都中央区新川2-6-16



日鶏協ニュース

平成29年7月号
一般社団法人 日本養鶏協会

2) 京都会場

平成29年11月17日(金) 10:00~16:00(予定)
京都リサーチパーク東地区1号館4F AV会議室
会館事務局 (TEL 075-322-7888)
京都市下京区中堂寺南町134

※ 問合せ先 (一社) 日本養鶏協会
電話 03-3297-5515 担当 丸竹・田渕
FAX 03-3297-5519

5 研修会内容

1) 研修内容(仮題)

- (1) 鶏卵規格取引について
- (2) 最近の鶏卵を巡る情勢について
- (3) 安全な鶏卵の生産と供給について
- (4) 鶏卵の表示に関する公正競争規約について
- (5) 市販鶏卵の格付け表示状況及び卵質検査等結果について

6 研修会受講費

研修会受講費は、1人当たり20,000円(テキスト、昼食費、修了証書等を含む。)を受講申込み送付先まで振込取扱票にて納入をお願い致します。受講費納入が確認された後、葉書で受講票を送付しますので、当日持参して下さい。

なお、納入された受講費の返却については、京都会場、東京会場の研修会開催日の1週間前までに受講できない旨のお申し出があれば返却致します。それ以降については理由を問わず返却致しませんのでご了承下さい。

7 修了証書

研修を完全に受講した方には、受講修了証書を当日研修会終了後、会場にて授与致します。

8 その他

- 1) 受講者の宿泊については、斡旋できませんので、各自お手配くださるようお願い致します。
- 2) 受講申込等について(一社)日本養鶏協会のホームページに掲載していますのでご利用下さい。

なお、本情報については[日本養鶏協会](#)ホームページ・トップページの

中央鶏卵規格取引協議会
(鶏卵規格取引研修会開催)

バナーからもご覧になれます。



採卵鶏の飼養動向



農林水産省から平成29年7月4日に畜産統計（各年2月1日現在（速報値））が公表されましたので、採卵鶏の調査結果について、その概要を紹介します。

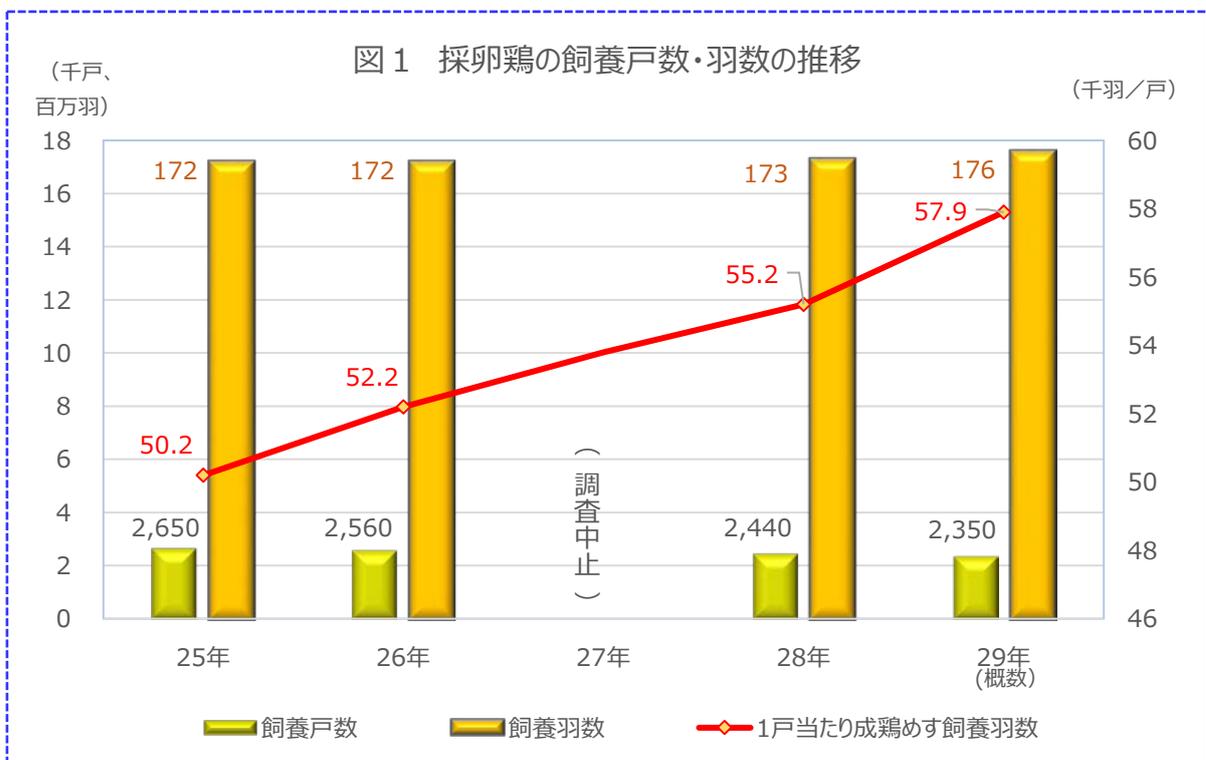
1. 飼養戸数

採卵鶏の飼養戸数は2,350戸で、廃業等により前年に比べ90戸（3.7%）減少しており、平成20年以降、年率4%程度の減少傾向で推移しています。

2. 飼養羽数

採卵鶏の飼養羽数は1億7,636万6,000羽で、前年に比べ301万7,000羽（1.7%）増加しており、2年連続での増加となっています。

このうち、成鶏めす（6か月齢以上）の飼養羽数は1億3,610万1,000羽で、前年に比べ153万2,000羽（1.1%）増加しており、平成26年以降増加傾向で推移しています。この結果、1戸当たり成鶏めす飼養羽数は5万7,900羽で、前年に比べ2,700羽増加しており、規模拡大が進展しています。



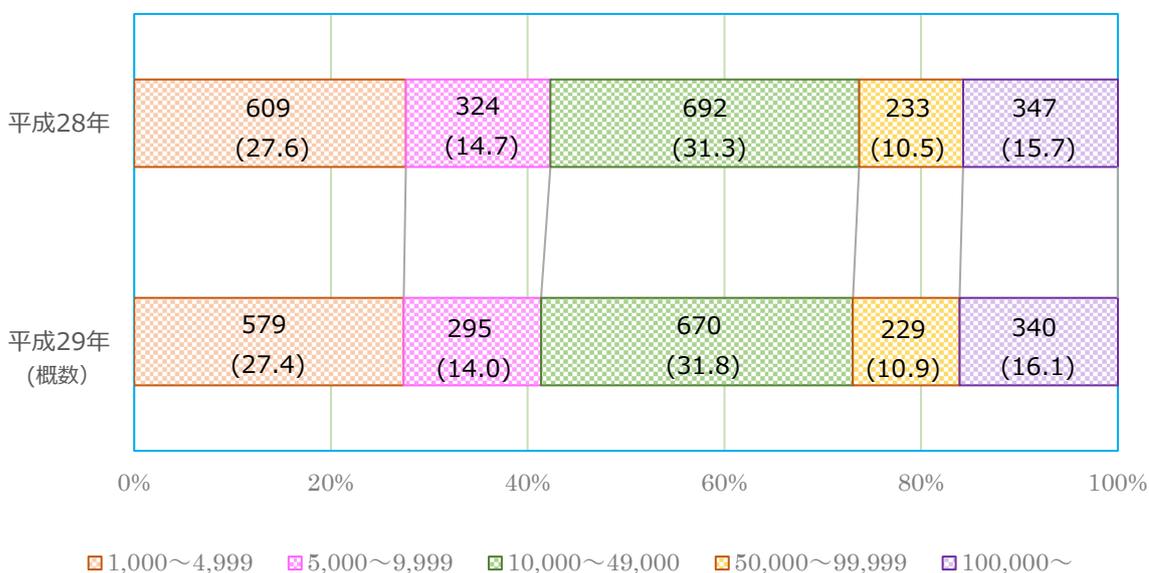
出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」

3. 成鶏めすの飼養羽数規模別飼養戸数・羽数

成鶏めすの飼養戸数及び飼養羽数を規模別（学校等の非営利的な飼養者を除く）にみると、前年の飼養戸数は、10万羽以上の階層のみの増加でしたが、今回は全ての階層で減少しています。10万羽以上の階層は、総飼養戸数の16%ですが、総飼養羽数に占める割合は74%超となり、大規模階層飼養者の飼養割合は年々高まっています。

図2 成鶏めす飼養規模別飼養戸数及び構成比

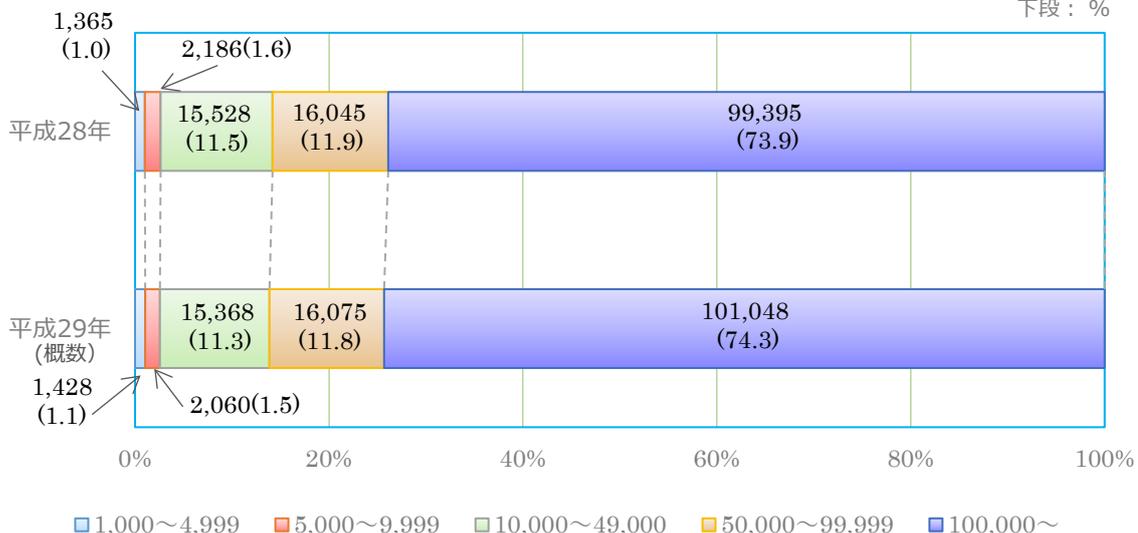
上段：戸数
下段：%



出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」

図3 成鶏めす飼養規模別飼養羽数及び構成比

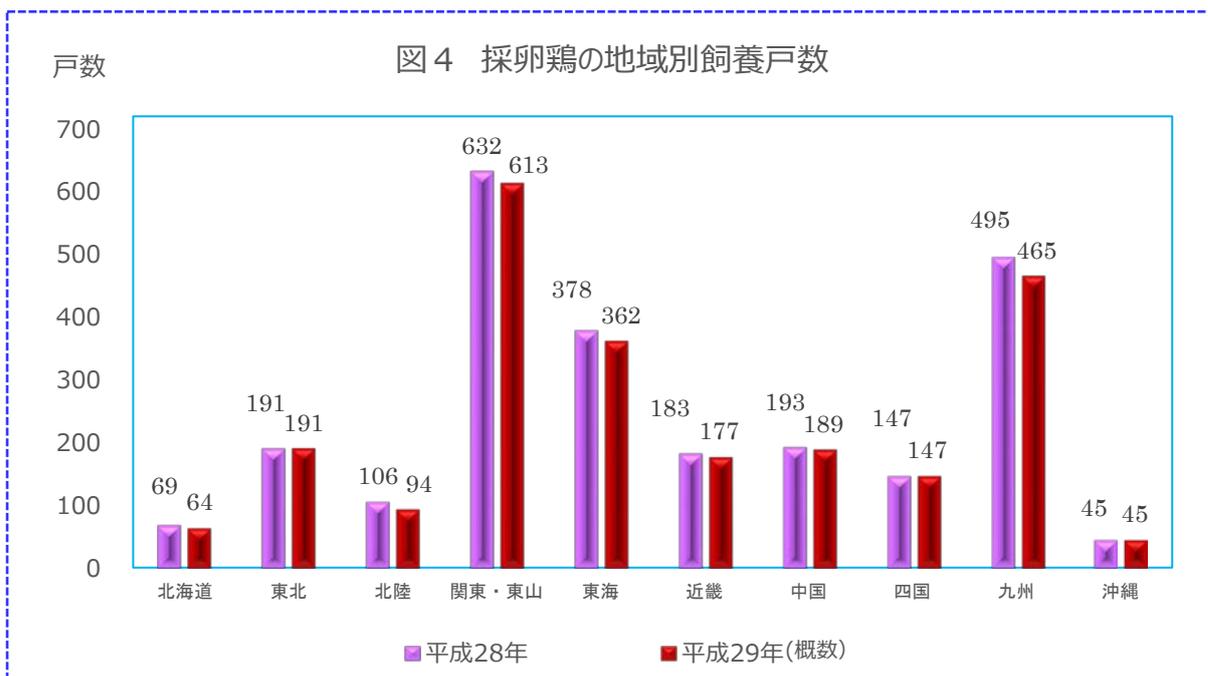
上段：羽数
下段：%



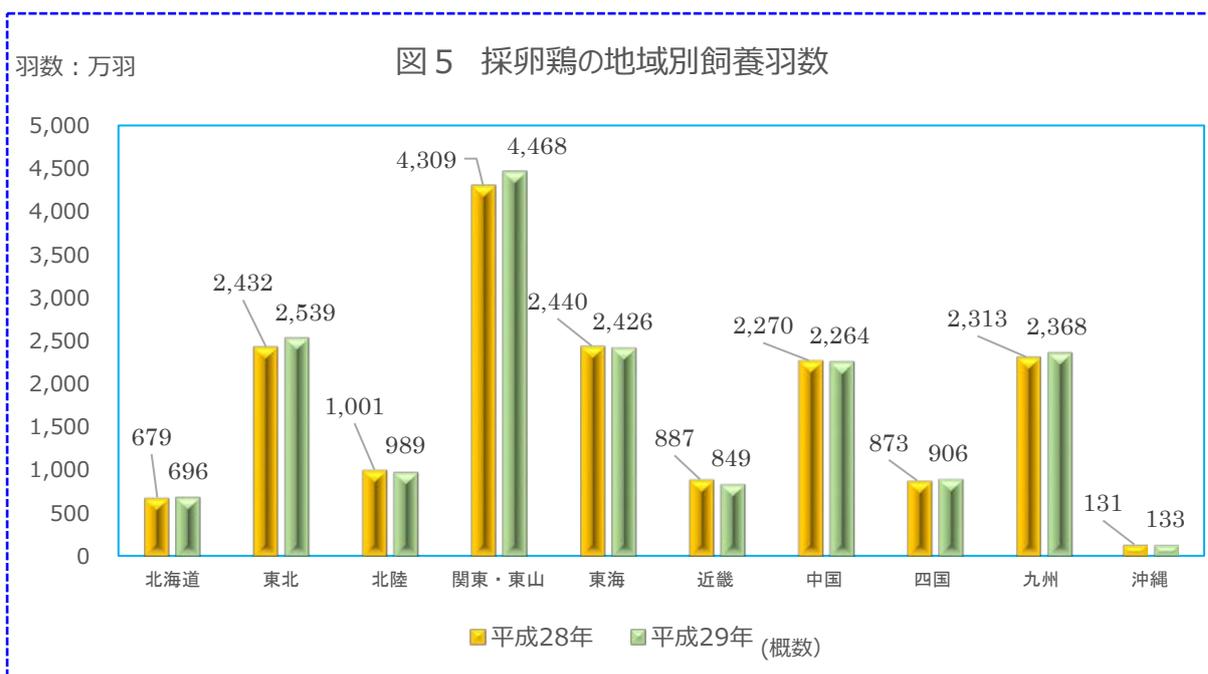
出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」

4. 地域別飼養戸数・羽数

飼養戸数及び飼養羽数を地域別にみると、飼養戸数は、四国及び沖縄では前年同でしたが、その他の地域では前年に比べ減少しています。飼養羽数は、北陸、東海、近畿、中国で減少しましたが、その他の地域では増加しており、特に関東、東北、四国では前年に比べ4%前後の増加となっています。



出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」



出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」



協会活動報告

[青字下線部クリックで、\(一社\)日本養鶏協会ホームページ内
該当事業のページが開きます](#)

各事業の報告

(1) 鶏卵生産者経営安定対策事業

① 鶏卵価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (トン/月当たり)

平成25年度	164,822
平成26年度	160,792
平成27年度	161,936
平成28年度	164,846

② 6月の標準取引価格 189.65 円/Kg

7月の標準取引価格 185.96 円/Kg

(補填価格 0.936 円/Kg)

平成29年度補填基準価格 187 円/Kg

平成29年度安定基準価格 165 円/Kg

(2) 国産鶏卵普及拡大対策事業



昨年度好評だった、「親子オムライス教室」を今年度は8月26日(土)青森県八戸市を皮切りに全国5ヶ所で開催する予定です!!

本年度は、参加を希望される親子5組に参集いただき、たまごタレント友加里さんら講師の指導のもと、「**世界で一つだけのオムライス作り♡**」にチャレンジしていただきます。

実施会場によって、応募方法・応募締切り・参加条件が異なりますので、詳細については下記URL当該ページをご覧ください。当協会のトップページからもご覧になれます。

https://www.jpa.or.jp/campaign_info/campaign2017.html

(上バナー(画像)またはURLをクリックすると該当ページが開きます)

(3) 畜産物輸出特別支援事業(鶏卵輸出部会)



米国向け「日本のたまご」意見聴取

米国農務省家畜衛生当局 (APHIS/Animal and Plant Health Inspection Service) では日本の鶏卵に関して、日本は鳥インフルエンザ (AI) 及びニューカッスル病の汚染国であるとの評価により、日本からの殻付卵等の輸入を認めていませんでした。これを見直すべく、意見聴取 (パブリックコメント) を行っております。



これは長年における我が国からの解除要請を受けてリスク評価を行ったものですが、2015年の米国のAI爆発時には一時的に日本からも液卵用原料としての鶏卵輸入を認める処置も取っており、今後のAIに対する対策の一環とも考えられます。このパブリックコメントには米国以外の人々も参加できることとなっており、以下のURLからネットでの参加が可能です。

<https://www.regulations.gov/docket?D=APHIS-2016-0053>

このURLから「高病原性鳥インフルエンザとニューカッスル病の日本の現状に対する評価」(Evaluation of the Highly Pathogenic Avian Influenza and Newcastle Disease Status of Japan)という画面が出ます。その画面から意見聴取の参考とすべき2件の書類を読むことができます。

1. 「日本を高病原性鳥インフルエンザとニューカッスル病からフリーであると認識」

(Recognizing Japan As Free of Highly Pathogenic Avian Influenza and Newcastle Disease) という報告書では、結論としてAPHISの評価は「日本の生家禽と家禽製品(冷蔵品家禽肉と鶏卵を含む)を米国市場に開放することによるリスクは無視できる。」としています。

2. 「APHISによる日本の高病原性鳥インフルエンザとニューカッスル病の現状評価報告」(APHIS Evaluation of the Highly Pathogenic Avian Influenza and Newcastle Disease Status of Japan) という報告書では

- ・評価はOIEのガイドラインの沿って行われたこと
- ・評価を行う際の日本の防疫体制の報告

などが掲載されており、結論としてAPHISは「日本はNDとHPAIのウィルスからは、それぞれ2010年8月と2017年4月以降フリーである。」と結論づけた。となっています。

パブリックコメントについては、7月末現時点では反対意見も見当たらないことから、日本からの殻付卵等の輸入解禁に向け、前進すると考えられます。



日鶏協ニュース

平成29年7月号
一般社団法人 日本養鶏協会



たまごってどこからくるの？

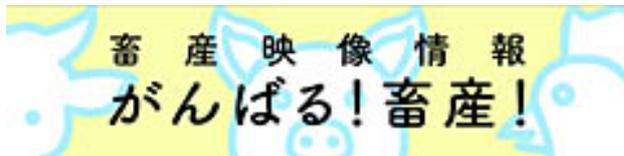
普段の食生活に欠かせないたまご。

現在の鶏卵は近代的で衛生管理された環境で生産されています。

たまごがどのように生産され、消費者へ届くまでをまとめたビデオを紹介します。

公益社団法人中央畜産会のホームページで「畜産物ができるまでシリーズ～たまごってどこからくるの？」というビデオが紹介されています。

消費者の皆様にも分かり易い内容のビデオですので是非ご覧になって下さい。



<http://jlia.lin.gr.jp/ganbaruchikusan/naruhodo.html>

(バナー (画像) またはURL をクリックすると該当ページが開きます)

このビデオは、昨年度鶏卵輸出部会が企画作成した「日本のたまご」PR ビデオ作成時の素材をもとに、30分と5分の2種類のビデオが作成されました。

撮影現場となった倉持産業 (株)、アミューズ (株) とも部会員であり、輸出向け「日本のたまご」の品質の良さを表現するビデオとなっています。

また9月からは、BS234chのグリーンチャンネルで放映されることとなっています。

放映予定は9月4日 (月) 7:30～8:00放送、

再放送は9月5, 6, 7, 8日の同時刻となっています。

2. 今後の予定

- | | |
|-------------------|--|
| 8月4日 (金) | 第4回 正副会長会議 (アットビジネスセンター東京駅)
第4回 理事会 (アットビジネスセンター東京駅)
中央鶏卵規格取引協議会 割卵検査 (馬事畜産会館2階) |
| 8月17日 (木)～19日 (土) | 香港 FOOD EXPO 2017
(Hong Kong Convention & Exhibition Center) |
| 8月26日 (土) | 「親子オムライス教室」イベント (青森県八戸市) |





日鶏協ニュース

平成29年7月号
一般社団法人 日本養鶏協会

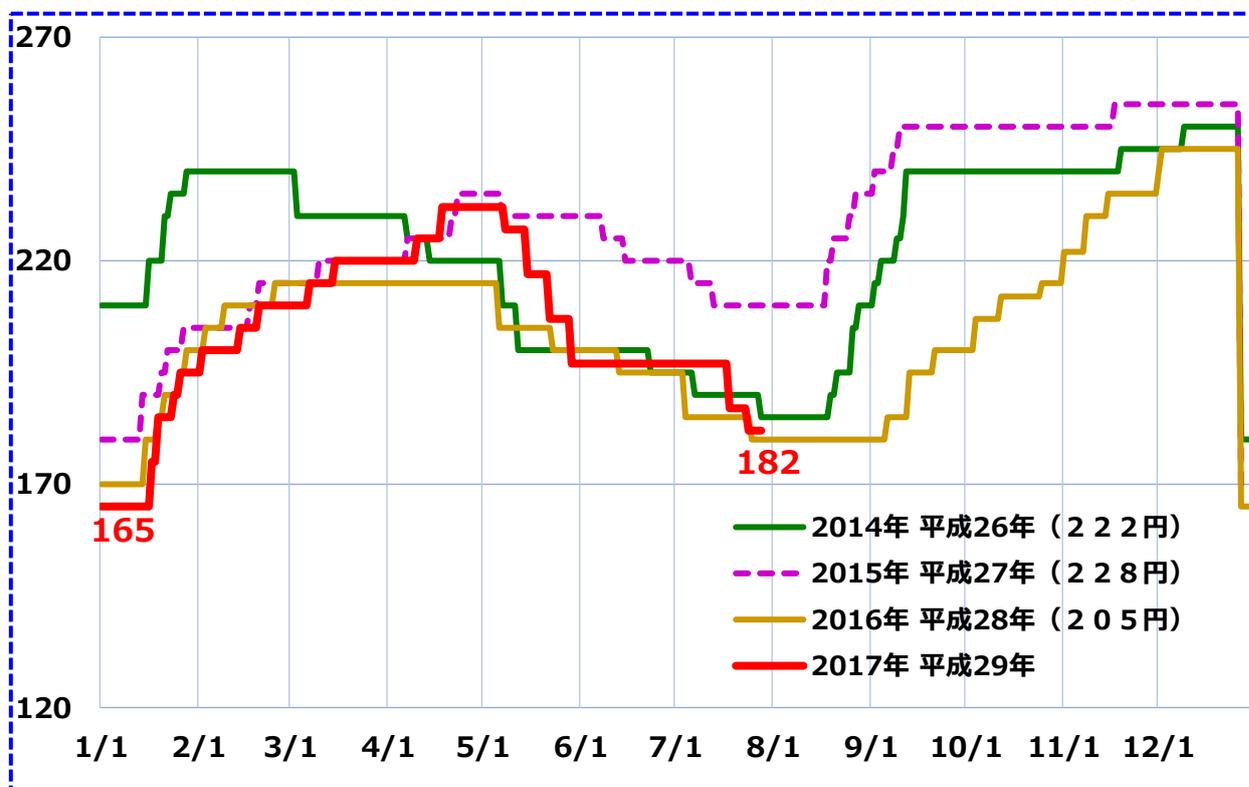
統計データ

【相場動向】過去10年間の6月相場<Mサイズ>

	平均値	高値	安値
平成20年	195	217	184
平成21年	167	188	154
平成22年	178	198	169
平成23年	213	258	199
平成24年	168	208	154
平成25年	164	198	154
平成26年	204	238	194
平成27年	230	253	224
平成28年	204	233	194
平成29年	216	250	191
平均値	194	224	182

平成29年6月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は、平均値は過去10年で2番目に高い216円、高値は3番目に高い250円と高値をキープしていますが、安値は過去4年で最も安い191円となっています。

【鶏卵相場推移 2014年～2017年 東京全農Mサイズ 円/Kg】



鶏卵相場は5月29日より、197円を維持していましたが、7月の中旬より値を下げ、28年度同時期の180円より2円高い182円となっています。



日鶏協ニュース

平成29年7月号
一般社団法人 日本養鶏協会

【鶏卵関係主要計数】平成29年5月までの1年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	本年	前年
28年 6月	9,228	101.6%	463	101.9%	867	108.0%	197	223
7月	8,532	96.6%	438	94.8%	864	105.7%	184	213
8月	8,471	112.9%	454	106.9%	811	100.8%	180	219
9月	9,184	108.8%	446	97.9%	847	105.5%	192	247
10月	9,140	103.1%	464	96.9%	908	106.6%	211	250
11月	8,837	103.7%	478	103.7%	875	104.0%	231	252
12月	9,213	101.6%	524	100.5%	909	106.9%	244	245
29年 1月	9,276	111.5%	457	101.9%	850	102.0%	179	182
2月	8,277	96.2%	450	95.8%	814	96.3%	204	209
3月	9,748	105.5%	513	103.1%	877	101.4%	217	215
4月	9,112	103.8%	468	95.9%	907	102.0%	227	215
5月	9,029	96.1%	497	106.6%	890	100.1%	216	204
1年間小計	108,047	103.5%	5,652	100.5%	10,419	103.3%	207	223

- ・雛餌付羽数は、前年同月比3.9%減となりましたが、年間の出荷羽数は3.5%増で推移しています。
- ・配合飼料出荷量は、前年同月比6.6%増となりましたが、年間の出荷量はほぼ前年並で推移しています。
- ・鶏卵の家計消費量は、ほぼ前年同月並となりましたが、年間では3.3%で推移しています。
- ・これらの統計からすると、供給サイドでの大きな落ち込みも無く、家計消費などの需要も堅調な展開となっています。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2017年8月1日

編集・発行責任者：小田上浩史(info@jpa.or.jp)

